

【暗唱聖句】「イスラエルの人々は安息日を守り、それを代々にわたって永遠の契約としなさい」出エジプト 31:16

【日曜日・起源】

安息日はユダヤ民族が生まれるはるか以前から存在していました。その起源は天地創造にまで遡ります。

創世記 2:2,3「第七の日に、神は御自分の仕事を完成され、第七の日に、神は御自分の仕事を離れ、安息なされた。この日に神はすべての創造の仕事を離れ、安息なされたので、第七の日を神は祝福し、聖別された」

直接安息日という言葉は出てきませんが、神様が「御自分の仕事を離れ、安息なされた」という言葉の中に、安息日の真理が含まれています。安息日を制定されたのは神様であり、その日を神様が祝福し、他の日と分けて聖別されたことがはっきりと示されています。

また、マルコ 2:27に「そして更に言われた。「安息日は、人のために定められた。人が安息日のためにあるのではない」と書かれています。言い換えれば、安息日は私たちの祝福と幸福、喜びのために制定されたのであり、安息日が祝福の日ではなく、喜びのない日や苦痛の日になってしまうようでは本末転倒です。自分にとって安息日がどのような日なのかを再確認する必要があります。

安息日は第7日目に制定されました。安息日はいつでも良いものではありません。神様は6日間の間に天と地のすべてのものを創造され、7日目に休まれ、この日を聖別されました。休む・安息すると訳されたヘブル語はシャバット(安息日)の動詞形で、この言葉には休むというよりも、断ち切るという意味があります。神様は創造の業を断ち切って安息に入り、それにより世界は完成しました。ということは、わたしたちも6日間の日常生活を断ち切って安息日に入ることによって、神の子として完成(再創造)されていくのです。

では、安息日に何の目的で制定されたのでしょうか。その大きな理由のひとつは、神様と交わるためです。日々の生活に忙しくしている私たちが、神様とだけ交わる日を聖別することで特別な祝福と喜びを得ることができるのです。

【月曜日・シナイ以前の安息日】

イスラエルの民がエジプトを脱出して2か月目、早くも民たちから不満が噴出します。それは食べ物に関することでした。そこが主は天からマナというパンのような食べ物を降らせてくださいました。不思議なことに、翌日まで残っていると腐ってしまうので、その日マナはその日の分しか持ち帰ることができませんでした。ただ、次の日には次の日の分がちゃんと降って来たので問題はありませんでした。ところが、安息日にはマナは降らなかったのです。そのため6日目に二日分なマナが降り、それは翌日の安息日になっても腐らなかったのです。必要な分を取り置くことができたのです。興味深いことに、この時点では、まだ十戒が与えられていませんでした。つまり、安息日の教えが具体的に示される前から、安息日の重要性がマナを通して教えられたということです。

出エジプト記 16章を通して安息日に関する様々な教えを知ることができます。

- ① 安息日のための備えを前日の6日目金曜日に行うということ。16:22,23「六日目になると、彼らは二倍の量、一人当たり二オメルのパンを集めた…モーセは彼らに言った。「これは、主が仰せられたことである。明日は休息の日、主の聖なる安息日である。焼くものは焼き、煮るものは煮て、余った分は明日の朝まで蓄えておきなさい。」
- ② 安息日は週の第7日目であること。16:26「七日は安息日だから野には何もないであろう。」
- ③ 安息日は何もしない日。16:30「民はこうして、七日目に休んだ」
- ④ 安息日は断食をする日ではない。16:25 モーセは言った。「今日はそれを食べなさい。今日は主の安息日である」
- ⑤ 安息日は神様に対する忠誠を試す日。16:27,28「七日目になって、民のうちの何人かが集めに出て行ったが、何も見つからなかった。主はモーセに言われた。「あなたたちは、いつまでわたしの戒めと教えを拒み続けて、守らないのか。」

【火曜日・契約のしるし】

出エジプト 31:16、17 「イスラエルの人々は安息日を守り、それを代々にわたって永遠の契約としなさい。これは、永遠にわたしとイスラエルの人々との間のしるしである」

安息日は神様と私たちとの関係を示す特別な「しるし」として4回登場します。安息日は主は私たちの神であり、私たちはその民であることのしるしです。また、それは一回かぎりのしるしではなく永遠に続くものでもあることが強調されています。それと共に、安息日は恵みによる救いと関連しています。

申命記 5:13、14 「六日の間働いて、何であれあなたの仕事をし、七日目は、あなたの神、主の安息日であるから、いかなる仕事もしてはならない。あなたも、息子も、娘も、男女の奴隷も、牛、ろばなどすべての家畜も、あなたの町の門の中に寄留する人々も同様である。そうすれば、あなたの男女の奴隷もあなたと同じように休むことができる」

イスラエルの民は長年にわたってエジプトで奴隷状態にありました。奴隷に休みなどありません。しかし、いまや奴隷状態から解放されて救われ、自由とされたのです。しかし、それは彼らが優れていたからとか、良い業を行ったからというわけではありませんでした。ただ主はイスラエルの叫びを聞き、救いの御手を差し伸べられたのです。つまり、主の恵みによって救われたのです。そのことを安息日の休みごとに思い返すのです。私たちが罪の奴隷でしたが、いまや恵みによって罪が赦され、神の子として平安を得ています。そのことを安息日ごとに確認し、共に喜ぶのです。

【水曜日・聖化のしるし】

出エジプト 31:13 「あなたは、イスラエルの人々に告げてこう言いなさい。あなたたちは、わたしの安息日を守らねばならない。それは、代々にわたってわたしとあなたたちとの間のしるしであり、わたしがあなたたちを聖別する主であることを知るためのものである」

ここに、安息日をするしとされた目的について書かれてあります。それは神様が私たちが聖別する主であることを知るためです。ヘブライ語で知るとは、単に事実として知ること以上の意味を持っています。特に人との関係については、その人と意味ある関係を持つことを含んでいました。ですから、主を知ることとは、主と正しい関係にあることを、すなわち主を畏れ、主に仕える、主を信じ、主を尋ね、主により頼むことなどによって、主を知ることです。しかも、このような神様との関係性の中であって、主が私たちが聖なるものとしてくださったことを知るためのしるしとして、安息日が与えられたのです。わたしたちは、このように安息日を神様との関係を深め、神様をより深く理解し、自分たちを聖ととしてくださった、つまり神様を知らない人たちとは区別されていること知る人として。意識しているのでしょうか。安息日ごとに問いかけたいものです。

【木曜日・安息日を覚えること】

出エジプト 20:8 「安息日を心に留め、これを聖別せよ。」

安息日は旧約時代のみならず、今もなお人が覚えるべきしるしです。安息日を心に留める（口語訳・覚える）とは、過去・現在・未来において、それぞれ大切な意味を持ちます。過去という点では、創造の記念日であることを覚え、天地万物は神様によって創造されたのだということを、安息日に思い出します。もちろん、わたしたち一人一人も神様によって創造されたことに目を向けます。現在という点では、安息日を守り、聖別することが求められます。未来という点では、安息日はわたしたちを希望に満ちた将来へと目を向けさせてくれます。安息日を守る人は、安息日の主であるイエス様と深く豊かな関係を持っていることを意味しています。それゆえ、イエス様が将来用意されている永遠の御国が約束されていることを、安息日ごとに確認することができ、希望が与えられます。このように、安息日は、過去・現在・未来において、重要な意味を持っていることがわかります。もし、安息日を心に留めて、これを聖別することがなければ、このような過去・現在・そして未来に対する思いを持つことはできなかったことでしょう。安息日の素晴らしさを知るクリスチャンとして、SDAに導かれたことは、本当に幸いなことです。